

審議会等の会議の概要の記録

会 議 の 名 称	令和6年度 第2回子ども・子育て会議
開 催 日 時	令和6年12月19日（木） 午前10時00分から
開 催 場 所	甲州市役所 1階 国際交流市民交流センター
議 題	1 第3期甲州市子ども・子育て支援事業計画（案）について 2 その他
出 席 委 員	田邊康仁委員、甘利志賀峰委員、一ノ瀬佳委員（代理出席）、雨宮紀子委員、吉田直紀委員、木下みどり委員、廣瀬美香委員、相澤裕美委員、三枝敏明委員、若尾由紀子委員（役員名簿順）
会議の公開または非公開の区分	公開
会議を一部公開又は非公開とした場合の理由	
傍聴人の数	0人
審議概要	別紙のとおり
事務局に係る事項	子育て支援課 6名（矢口課長、向山リーダー、雨宮リーダー、古屋リーダー、加山、市川）、株式会社明豊 1名（池上）
そ の 他	

令和6年度 第2回甲州市子ども・子育て会議 審議概要（開催日：令和6年12月19日）

内容	次第に基づき以下のとおり進められた。
1. 開会	事務局（向山）開会
2. 会長あいさつ	○三枝会長あいさつ
3. 議事	議長：三枝会長
（1）第3期甲州市子ども・子育て支援事業計画（案）について	○事務局（向山） 第3期事業計画（案）について資料に基づいて説明。 ・第1章 計画策定の背景と目的 の概要説明。 ○甘利委員 計画の期間について、必要に応じて見直しと記載されているので、状況に応じて柔軟に対応できるので良い。今後、県のこども計画が策定されたら、整合性をとって子ども・子育て支援事業計画の方も変えていくという認識で良いか。 ○事務局（向山） 計画の見直しに関しては、3年目の時期に中間見直しを行う。県のこども計画は来年度から施行のため、整合性を取りながら見直し協議を行う。今回の第3期子ども・子育て支援事業計画については令和7年度からの施行のため、整合性を取ることは難しいが、中間見直し等で取り入れていくことになる予定。 ・第2章 甲州市の現状 ○甘利委員 ニーズ調査の中の「子育て環境や支援の満足度」について、少しではあるが「満足している」割合が減少していることについて、個人的に予想すると、前回調査の時よりも近隣市町村・他市町村の施策が進んできたことを、若い世代の保護者達は SNS 等で見たりするので、結果的に「普通」の割合が増えたのではないかと考える。

	○事務局（向山） 就学前児童の保護者に関して満足度が下がってしまったことは、市としても何が要因かを追究していかなければならないと考えているが、アンケートの中からは具体的には読み取ることができなかった。甘利委員の意見も参考に検討していく。 ・第3章 施策の展開 ○甘利委員 基本方針3「社会全体による支援」に関して、前章で育児休業を取得しなかった理由に「利用しにくい雰囲気があった」「経済的に苦しくなる」「職場に制度がなかった」また、少数ではあるが「利用できることを知らなかった」という方もいることが明らかになった。甲州市だけのことではないが、国や県も含めて、いろいろな企業に育児休業制度の周知や取得しやすい雰囲気づくりを進めてもらいたい。 ○事務局（向山） アンケート調査では、育児休業を取得した割合は前回調査に比べて上がってはいる。しかし現状としてはまだ環境が整っていない企業があるのも確か。子育て支援課だけではなく市全体の中でも推奨していくことが必要と考える。 ○西川委員（一ノ瀬委員代理） 甲州市の保育料無償化について、素晴らしいことだが、実際、入所を希望する保護者が増加しているように感じている。一方で、現場では保育士不足等厳しい状況もあるが、保育料を無償化したことは他市町村や東京都等と比べても一歩進んでいると感じている。 ○事務局（矢口課長） 保育料の無償化にあたっては、待機児童が発生しないような対応をしなければならないので、保育士の確保は課題として認識している。学生に
--	---

保育士が魅力的な仕事であること、甲州市で保育士として勤める魅力等を発信するような施策を進めたいと考えている。

○木下委員

10年程前、主任児童委員をしていた際、子育て支援事業であるこどもフェスタに委員として参加した。平日に開催していたが、共働きの家庭が増えているため平日よりも土日開催の方が参加しやすいのではないかと感じた。また参加者も3割程は市外在住であったが、甲州市の予算で開催しているものなので、市外参加者からは参加費を取るなどしても良いのではないかと感じた。

現在のこどもフェスタがどのように開催されているか分からないが、父親も育児参加する時代、子育て中の市民が参加しやすいような方法を考えてもらいたい。

○事務局（向山）

現在のこどもフェスタは市の事業ではなく、市内4カ所の子育て支援センターの先生方が中心となって実行委員会を立ち上げ、市からの補助金をもとに事業を進めている。今年度も11月13日水曜日の日中に開催した。平日開催について経緯の詳細は把握していないが、未就学児（0～2歳児）を対象としているため、土日開催にすると上のお子さんを連れてくることになり会場の広さなども含め総合的に判断して平日開催としている。小規模でアットホームに、相談しやすい環境を作ることを趣旨としている。

子育て環境や支援の満足度に関係する可能性もある。こどもフェスタ実行委員会にも今回いただいた意見を報告させてもらい、今後の開催について検討していきたい。

また、参加者全体の人数は把握しているが、そのうち市外在住の参加者数は把握していない。参加者を市内在住者に限定することは難しいが、市内の方にPRをしてより多くの市民に参加してもらえるよう周知に力を入れていく。

○相澤委員

子育て支援センターあっぷっぷの職員であり、フェスタの実行委員もしている。フェスタはあくまでも未就園児の親子が対象であり、週末開催も何度か検討したが、上のお子さんを連れてくるとその対応を考える必要があるため、お母さんたちには上のお子さんを気にせずゆっくり過ごしてもらえるように平日開催としている。また、現在は食事の提供などしていないので、来てもらってその場で体験したり子育ての相談をしたりと、10年前のフェスタとは形も変わってきている。土日開催についても今後実行委員会で話し合い、いずれ開催できたらと思うが、しばらくは現行の形で開催していきたいと考えている。

○若尾委員

こどもフェスタは素晴らしい取り組みだが、自身は運転免許がなくふれあい館まで子どもを連れていくことができず参加できなかった。市内の公園の立地について、市街地に大きな公園が少なく行きづらいと感じている。

○相澤委員

甲州市民文化会館で開催したこともあったが、部屋ごとにブースが別れてしまい全体が見えないため、やはり体育館のような広い場所で行うのが良いこともありふれあい館で開催している。本当はそのような場所が市街地にあれば良いが。

また、参加者についてもコロナ禍以降は市内での周知と各支援センターに来ている方へお知らせしている形だが、支援センターの利用者も市外の方がいるためフェスタにも市外の方が参加はしている状況。

○三枝議長

こどもフェスタに関すること以外に質問・意見はありますか。

	○田邊委員 社会福祉協議会の方で毎月行っている子育てサロンとの連携も計画に入ってもいいのではないかな。 ○事務局（向山） 市の事業としては、子育て支援センターの事業を通じて子育てサロンとも連携を取っている状況。子ども・子育て支援事業計画の方には市の事業しか掲載が無いが、今後こども計画の中では社会福祉協議会との連携も反映していきたい。 ○木下委員 子育てサロンについては、中心になるのは社会福祉協議会の補助金であり、民生委員がボランティアで行っている事業となる。 ○事務局（矢口課長） 社会福祉協議会の施策との協同について、子育てしやすい環境の整備・地域における居場所づくりとして、夏と冬にこども食堂を実施していただいている。市の施策・社会福祉協議会の施策で協同して一緒に取り組んでいく必要がある。今後、こども計画の策定を予定しているが、そこらには事業を記載していきたい。 ・第4章 子ども・子育て支援事業の推進 ○甘利委員 コーホート変化率法について、詳しく説明してほしい。 ○事務局（明豊 池上氏） 過去における実績人口の動勢から「変化率」を求め、それに基づき将来人口を推計する方法。過去5年間の実績から割合を出し、その割合を1歳前の年の人数に掛けている。
--	---

○甘利委員

保育料無償化に伴って、保育士の量もちろんだが質の部分も含め、研修や働き方改革、モチベーションを持って働ける環境を作ってもらいたい。

自身の子が里帰り出産をし、乳児家庭全戸訪問事業で訪問に来てもらい大変ありがたかった。娘やお嫁さん等、周囲の母親に話を聞くと、市の子育て施策はたくさんあるが分からなかったり見落としてしまったりもすると聞いたので、例えば一覧にして見やすくしたものを全戸訪問のタイミング等で直接配りながら説明したら良いのではないかな。

○事務局（向山）

子育て支援の情報集約化については、ママのあんしんネットワーク会議（事務局は健康増進課）でも議題として上がっている。現在「にこにこ子育てガイド」という冊子を作成し、子育て支援に関する情報を集約したものを配布しているが、なかなか行き届いていないように感じている。保健師から妊娠時等に情報提供は行っているはずだが、さらに分かりやすく、また特に若い世代に対してインターネットを活用した周知方法も検討する必要がある。健康増進課の母子保健担当とも連携しながら検討を進めたい。

○事務局（矢口課長）

保育士の質の向上、研修の強化について、保育所独自で職員研修の実施、県の実施する研修には積極的に参加するよう働きかけをしている。処遇改善については、財源が伴うものであり市独自で給与を上げることは難しいが、国の動向を踏まえて対応していく。いずれにしても、現場に負担がかからないよう対応していきたい。

○田邊委員

以前に比べ、子どもたちの特性・個性がかなり強くなっていると感じる。保育や児童クラブの現場でも、職員が一人では対応が難しい事例も増加

	している。必要な時に特性に合わせた職員が配置できるような人材の確保も市の方で考えてもらえるとよい。現場で直接子どもに対応する職員を大事にしてもらいたい。 ○事務局（矢口課長） 子どもたちの抱える事情も複雑化していることを受け、国の方から各市町村にこども家庭センターを設置する努力義務が課せられ、本市は令和6年4月から設置したところ。虐待や児童・家庭に問題がある等の子どもに関しては、まずこども家庭センターで相談を受けている。 児童クラブに関しても、補助員さんとして登録のある方に助力いただきながら子どもたちへの対応が十分行き届くようにしたい。 ○若尾委員 子どもが1歳の時に移住して10年が経過した。知り合いがいない所での生活ということもあり精神的にも大変だったが、ファミサポや保育所の先生に助けてもらったと感じている。転入した時、子育てガイドもきっと資料としてはもらったのだろうが、子育てに追われて結局その時に必要な助けを知ることができなかった。必要としている情報が欲しい人にダイレクトに届くような方法を考えていく必要がある。 ○事務局（矢口課長） 今回の会議の中だけでも、制度の情報が行き渡っていないという意見が多い。現状でもその都度情報は発信しているが、再度周知方法や発信の仕方を研究していきたい。 人員確保に関しても、保育士や教師が魅力ある仕事であることを広めることが重要であると考えている。小学校や中学校等にPRするといった、間口を広げるような方法も考えていきたい。 ○甘利委員 事業の周知について、児童クラブやファミサポ以外にも、地域の主任児
--	--

童委員さんや民生委員さんが、顔が分かる人間関係で、その家の子どもに合ったサポートがあることを伝えてくれるようなことがあれば、保護者も行動に移しやすいのではと思う。

○事務局（矢口課長）

委員さん方が集まる会議の場で、子育てに関する制度や事業についての説明や資料の配布も行いながら、活用してもらえるようにしていきたい。

○木下委員

民生委員と主任児童委員が新生児訪問ファーストスプーン事業を行っている。地域に根付いた活動で、お互いに顔の分かる関係になり、子育てサロンに誘うこともある。サロンには子育てガイドも置いてあるが、訪問時に配ることもできると思う。

○雨宮（紀子）委員

現在主任児童委員をしており、新生児訪問ファーストスプーン事業で家庭訪問をする時には、子育てサロンのチラシや子育てガイドを持参して説明もしているが、なかなか出てこないお母さんもいる。その場合はハガキを出したり電話をしたり、アプローチを続けている。

また、市内に8カ所ある子育てサロンでは、LINEを活用しグループを作りイベントのお知らせを配信している。若い世代はインターネットをよく見ているので、サロンのことを知ってもらうよう取り組んでいる。以前は地区の親子が来ていたが、近年は少子化も進んでいることから、市外在住者や里帰り出産の方も利用可能としている。山梨市から来ている方が多く、甲州市は子育て支援のメニューが充実していると話を聞くことが多い。

○相澤委員

若い世代の情報キャッチはどうしているのか。里帰り出産の方もどのよ

(2) その他	うにして甲州市の子育て情報を得ているのか。 ○事務局（向山） 里帰り出産の方も、健康増進課の方で保健師の訪問や相談対応を行っているので、その中で情報も提供しているのではないかと。また、子育て支援課としてもベビー用品の貸出事業等、分け隔て無い対応をする方針。 ○雨宮（紀子）委員 8地区でサロンを開催しているが、なかなか子どもが集まらないこともあり今年度は初めて3か所合同開催の日を設けた。また、クリスマス会を勝沼・奥野田地区合同で開催し、明日は神金・玉宮・大藤・松里・奥野田の5地区合同で開催する。山梨市在住の方も参加の予定。来年度どのように開催していくか摸索中。 ○三枝議長 子育てに関する事業の周知方法について様々な意見が出た。聞いていて感じたのは、里帰り出産の方は特に心細い気持ちから、積極的に情報を取りに行く傾向があり、逆に甲州市で生まれ育ち結婚して子育てをしている方は、ある程度安心なネットワークが既にあるのでそこまで積極的に情報を取りに行くことが無い可能性もあると感じた。良い事業がたくさんあるので、情報がうまく広がっていくことが大事。 (2) その他 ○事務局（向山） 今後の計画策定の予定および次回会議について資料に基づいて説明。 ・令和7年1月中旬にパブリックコメントを実施予定 ・2月中に第3回会議を実施し、事業計画最終案について承認を受ける予定 質問・意見特に無し
----------------	--

4. 閉会	○三森会長 その他なければ、これで議事を終らせていただく。 ○事務局（向山） 閉会の辞
-------	---